

平成24年1月

受益者の皆様へ

UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社

「グローバル・アンブレラ」を構成する 5ファンドの信託期間延長について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、弊社の投資信託に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社運用の投資信託「グローバル・アンブレラ」を構成する5本のファンドにつきまして、信託期間を5年間延長し、新しい信託期間終了日を平成29年12月5日とさせていただき旨ご案内申し上げます。

「グローバル・アンブレラ」は、世界の株式およびコモディティの主要指数との連動を目指す7ファンドとマネーファンドの計8本から構成されており、当初の予定では全てのファンドが平成24年12月5日に信託期間の終了を迎える予定でした。

弊社では、各ファンドの純資産総額の推移および投資家の将来的なニーズを考慮した結果、新興国の株式またはコモディティの指数との連動を目指す4本のファンドおよびマネーファンドについて信託期間を5年間延長する約款変更を行い、運用を継続することと致しました。

なお、「UBS 世界株(除く日本)」、「UBS 世界株ショート(除く日本)」および「UBS エコ」につきましては、当初の予定どおり平成24年12月5日に償還されます。償還日に向けまして、組入れ有価証券の売却等によりファンド資産の現金化を行ってまいります。これにより基準価額の値動きが商品性どおりにならないことがありますので、予めご了承下さいますようお願い申し上げます。ファンドの市場連動についてのご留意点およびスケジュールについては、改めてご案内させていただきます。

今後とも、皆様のご信頼にお応えできますよう努力してまいります所存でございます。

なお一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

○信託期間を5年間延長するファンド(当該約款変更の対象となるファンド)

- ・UBS BRIC
- ・UBS コモディティ
- ・UBS フード(豪ドル連動型)
- ・UBS 原油(WTI先物指数連動型)
- ・UBS マネー

○平成24年12月5日に信託期間終了予定のファンド(当該約款変更の対象外のファンド)

- ・UBS 世界株(除く日本)
- ・UBS 世界株ショート(除く日本)
- ・UBS エコ

*当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）／インデックス型	
信託期間	2007年12月19日から2017年12月5日まで	
運用方針	世界の代表的商品市況を表す UBS ブルームバーグ CMCI 総合指数に概ね連動し、世界の商品市況を反映する投資成果を目指して運用を行います。	
主な運用対象	グローバル・アンブレラ UBS コモディティ	UBS コモディティ・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	UBS コモディティ・マザーファンド	主として世界の代表的商品市況を表す UBS ブルームバーグ CMCI 総合指数に価格が連動するユーロ円建て債券等（商品指数連動債等）を中心に投資を行います。
主な投資制限	グローバル・アンブレラ UBS コモディティ	<ul style="list-style-type: none"> 株式への実質投資割合は、転換社債の転換請求等により取得した株券に限るものとし、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	UBS コモディティ・マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> 株式への投資割合は、転換社債の転換請求等により取得した株券に限るものとし、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として配当等収益と売買益等の中から市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配を行わない場合があります。留保益の運用については特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。	

グローバル・アンブレラ UBSコモディティ

第4期 運用報告書
決算日 2011年12月5日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「グローバル・アンブレラ **UBS** コモディティ」は、去る12月5日に第4期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBSグローバル・アセット・マネジメント

東京都千代田区大手町 1-5-1
大手町ファーストスクエア イーストタワー

<お問い合わせ先>

投信営業部
03-5293-3700

<受付時間>

営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く

<http://www.ubs.com/japanfunds>

© **UBS** 2011. キーシンボル及び**UBS**の各標章は、**UBS**の登録又は未登録商標です。**UBS**は全ての権利を留保します。

* 設定以来の運用実績 *

決算期	基準価額	税込み 分配金	期中 騰落率	ベンチマーク UBSブルームバーグ CMCI総合指数 (円換算ベース)		債券組入 率	債券先物 率	純資産
				期 騰落率	期 騰落率			
(設定日) 2007年12月19日	円 10,000	円 —	% —	10,000.00	% —	% —	% —	百万円 5,118
1期 (2008年12月5日)	5,278	0	△47.2	5,314.77	△46.9	97.9	—	1,221
2期 (2009年12月7日)	6,820	0	29.2	7,063.08	32.9	97.1	—	1,609
3期 (2010年12月6日)	7,013	0	2.8	7,394.38	4.7	99.8	—	1,128
4期 (2011年12月5日)	6,526	0	△6.9	7,040.05	△4.8	99.2	—	1,440

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注3) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注4) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注5) 債券先物比率は買建比率-売建比率。

(注6) UBSブルームバーグCMCI総合指数(円換算ベース)はUBSブルームバーグCMCI総合指数を委託会社において円換算。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

* 当期中の基準価額と市況等の推移 *

年月日	基準価額		ベンチマーク		債券組入 率	債券先物 率
	騰落率	騰落率	UBSブルームバーグ CMCI総合指数 (円換算ベース)	騰落率		
(期首) 2010年12月6日	円 7,013	% —	7,394.38	% —	% 99.8	% —
12月末	7,261	3.5	7,676.95	3.8	111.2	—
2011年1月末	7,485	6.7	7,935.03	7.3	102.2	—
2月末	7,696	9.7	8,182.00	10.7	106.9	—
3月末	7,811	11.4	8,319.88	12.5	98.7	—
4月末	7,961	13.5	8,496.45	14.9	101.2	—
5月末	7,520	7.2	8,053.21	8.9	98.5	—
6月末	7,400	5.5	7,920.98	7.1	99.0	—
7月末	7,389	5.4	7,919.56	7.1	98.9	—
8月末	7,150	2.0	7,672.80	3.8	98.5	—
9月末	6,324	△9.8	6,793.88	△8.1	99.3	—
10月末	6,537	△6.8	7,037.91	△4.8	99.6	—
11月末	6,394	△8.8	6,895.80	△6.7	98.9	—
(期末) 2011年12月5日	6,526	△6.9	7,040.05	△4.8	99.2	—

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 騰落率は期首比です。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率。

(注5) UBSブルームバーグCMCI総合指数(円換算ベース)はUBSブルームバーグCMCI総合指数を委託会社において円換算。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

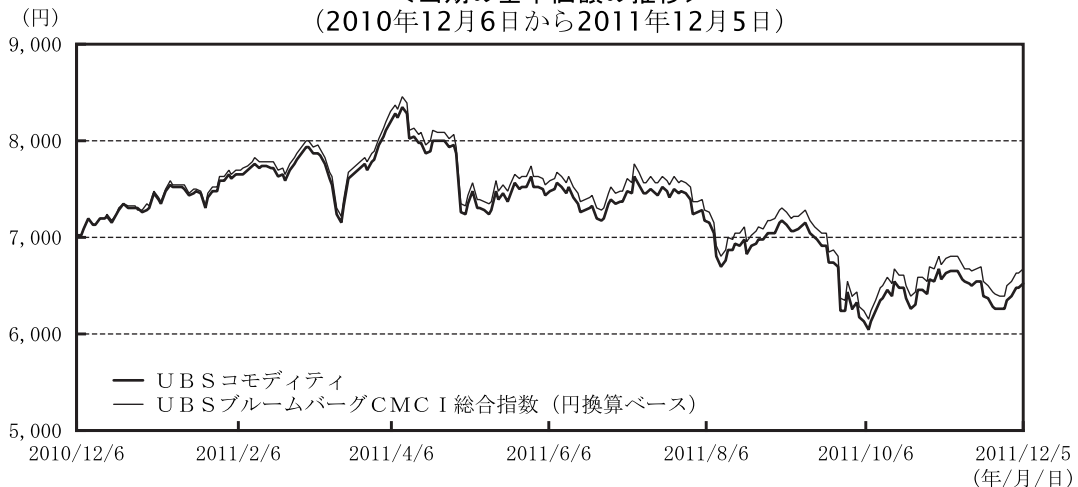
(注6) 債券組入比率は、当ファンドの資金流入と債券の売買のタイミングがずれること等により100%を大きく超える場合があります。(以下同じ。)

UBSブルームバーグCMCI総合指数

UBSブルームバーグCMCI総合指数に関する著作権、およびその他知的財産権はUBSおよびBloombergに帰属しており、UBSの許諾なしにデータを複製・頒布・使用等することは禁じられております。UBS AGまたはその関係会社(以下、「UBS」という)が情報提供のみを目的として作成したものであり、指数構成銘柄への投資を推奨するものではありません。UBSは、情報の正確性、確実性および完全性を保証するものではなく、UBSは当指数の利用に伴う如何なる責任も負いません。

* 当期の運用状況 *

＜当期の基準価額の推移＞
 (2010年12月6日から2011年12月5日)



1. 投資環境

コモディティ市場
 ＜エネルギー＞

原油市場は、2011年2月にかけて、エジプトやリビアの政情不安による供給懸念が上昇要因となる一方、米国の原油在庫増が重石となり、一進一退となりました。その後、中東・北アフリカでの政情不安が高まり、加えてリビアの情勢悪化などを材料に、4月下旬にかけて高値を追い展開となりました。5月には、世界的な景気後退懸念から需要拡大期待が後退し、加えて一時的なドル高の進行により下落。欧米の債務問題の深刻化により投資家のリスク回避志向が強まると、一層下げ足を早めました。一方で10月には、米国経済指標が予想値を上回ったことなどを材料に、リスク回避志向が後退。欧州連合（EU）首脳会議において、ギリシャに対する秩序だった不良債権処理や欧州金融安定基金（EFSF）の大幅拡充が合意されたことを受けて投資家心理が改善すると、一段高となりました。

＜工業用金属＞

工業用金属は、2011年2月中旬にかけて、世界的な景気回復と金融緩和策が相場の上昇要因となって上昇基調を辿り、およそ4年ぶりの高値を更新しました。その後は、世界景気の減速懸念の広がりや、東日本大震災の影響による原発事故への懸念により反落。更に一時的なドル高の進行や銀、原油相場の急落などにより投資家のセンチメントが急速に低下したことから、商品市場全体が大幅に下落する展開となりました。6月下旬には、ギリシャ議会の財政緊縮案の可決により不安心理が後退したことに加え、ドル安の進行が下支え要因となりました。その後は、欧州信用不安の再燃や米国価格付けの引き下げなど、金融市場の先行き懸念が高まったことなどから、世界的に株価が下落する中、工業用金属も下落基調となりました。

＜貴金属＞

2011年1月下旬にかけては、景気の先行きに対する楽観論が広がる中、安全資産としての金への投資需要が減退し弱含みに推移しましたが、2月には、中東・アフリカの政情不安や、インド・中国などでのインフレヘッジを目的とした現物需要の高まりを背景として、上昇に転じました。その後は、欧州信用不安の高まりや米国国債価格付けの引き下げなどによるユーロおよびドルの信認の低下で、通貨の代替資産としての価値の高まりが下支えとなって、高値水準で底堅く推移しました。9月には、高値警戒感と欧州債務危機の深刻化から投

資産を現金化する動きが活発化したことに加え、ユーロ／ドルでドル高が進行したことなどが嫌気され一時下落しましたが、その後は欧州債務問題に対する不安が高止まりする中、金市場へのリスク回避を目的とした資金の流入は高水準で推移しました。

<農作物>

2011年2月にかけての農作物は、生産各地の天候不順による減産観測から上昇基調を辿りました。2月下旬にかけては、中東・北アフリカの政情不安を受けて商品相場全体が一時下落しましたが、その後は穀物などの需給逼迫が材料視されたことにより反発しました。3月以降は、東日本大震災と原発事故の影響や原油や銀など他の商品の急落に加え、ロシアの穀物輸出停止措置解除の発表により小麦が急落したことなどの影響から、全体的に上値の重い展開となりました。9月に入ると、世界景気の後退懸念が台頭し、とうもろこしやサトウキビ（砂糖）のエタノール需要が鈍化すると観測に加え、欧州債務問題の深刻化によりリスク回避志向が強まったことから、農作物は全体的に大幅に下落。その後、米経済指標の改善や、ギリシャ債務問題解決に向けての事態進展への期待感から、原油価格や株価が上昇したことが相場の押し上げ要因となりましたが、大豆などの穀物の供給増加などの影響を受けると、再び下落基調となりました。

米ドル／円

期初ドル円相場は、米国景気に対する不透明感が後退してドル高となりましたが、その後は欧州各国で格付け機関による格下げや格付け見通しの引き下げが相次ぎ、投資家のリスク回避姿勢が強まったことからドルは反落。2011年3月初めにかけては、強弱まちまちとなる米経済指標の内容に左右される展開となりましたが、東日本大震災の発生でリスク回避に伴う急速な円買いが進行し、円は一時戦後史上最高値を更新しました。その後、G7の協調介入をきっかけにドルは反発。4月には、雇用統計が予想を上回る内容であったことや米当局者が早期金融引き締めに関及したことなどからドル高が進み、一時は2010年9月以来となる水準まで上昇しました。その後は、原発事故のレベル引き上げやギリシャの債務再編思惑などを受けてのリスク回避姿勢の高まりから、円が急速に買い戻され、10月には円は再び戦後最高値を更新する展開となりました。その後、日銀による円売り介入から一時は円安の展開になりましたが、引き続き欧州債務危機が材料として相場を支配する中、比較的狭いレンジでの展開となって期末を迎えました。



セクター別騰落率（米ドルベース）

エネルギー	農産物	工業用金属	貴金属	家畜
6.9%	△3.9%	△8.7%	19.7%	4.2%

2. 運用経過

当ファンドは、UBSコモディティ・マザーファンドへの投資を通じて、主としてユーロ円債等（商品指数連動債等）に投資を行い、ベンチマークであるUBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）に概ね連動する投資成果を目指して運用を行ってまいりました。

期首7,013円でスタートした基準価額は2011年4月11日に高値の8,356円をつけましたが、その後下落し2011年10月5日には安値の6,046円をつけました。その後期末にかけては上昇し、当期末の基準価額は6,526円となり期中の騰落率は-6.9%となりました。なお、ベンチマーク（UBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース））の期中の騰落率は-4.8%となりました。

3. 収益分配

当期の分配金に関しましては、基準価額水準および市況動向を勘案し、収益分配は行いませんでした。なお、収益分配にあてなかつた利益につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき元本部分と同一の運用を行います。

4. 今後の見通しと運用方針

商品市況の値動きは、主に世界各国のマクロ指標や景気対策の動向のほか、為替の変動に大きく左右されると考えられます。食品関連セクターは、引き続き需給の引き締めにより底堅く推移することが予想されますが、その他のセクターは、当面は、欧州の財政問題を巡る思惑も変動要因になると考えられます。

今後も引き続きUBSコモディティ・マザーファンドへの投資を通じて、UBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）に概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

*** 1万口（元本10,000円）当たりの費用の明細 ***

項	目	当 期
(a)	信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 銀 行)	64円 (37) (23) (4)
(b)	保 管 費 用 等	4
	合 計	68

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(b) 保管費用等は、期中の金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。また、保管費用等は諸費用等（法定開示に関する費用等）および監査報酬等を含みます。かかる費用は約款に定める方法に従い適宜見直しを行うため、その額は変動する場合があります。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 保管費用等は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

*** 親投資信託受益証券の設定、解約状況 ***（自 2010年12月7日 至 2011年12月5日）

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
UBSコモディティ・マザーファンド	千口 2,298,184	千円 1,782,300	千口 1,724,724	千円 1,247,300

(注) 単位未満は切り捨て。

*** 利害関係人との取引状況 ***（自 2010年12月7日 至 2011年12月5日）

(1) UBSコモディティ・マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

区 分	買 付 額 等 A			売 付 額 等 C		
	うち利害関係人との取引状況B	B A	%	うち利害関係人との取引状況D	D C	%
公 社 債	百万円 3,283	百万円 3,283	100.0	百万円 2,751	百万円 2,751	100.0

(注1) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはUBS証券会社（東京支店、ユービーエス・エイ・ジー（銀行））です。

(注2) 平均保有割合 99.7%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該子ファンドの親投資信託所有口数の割合。

(注3) 公社債には現先などによるものを含みません。

(2) UBSコモディティ・マザーファンドにおける利害関係人の発行する有価証券

種 類	当 期		
	買 付 額	売 付 額	期 末 保 有 額
公 社 債	百万円 3,283	百万円 2,751	百万円 1,436

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

該当事項はありません。

*** 組入資産明細 ***

親投資信託残高

(2011年12月5日現在)

項 目	期 首	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
U B S コ モ デ ィ テ ィ ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	千口 1,578,708	千口 2,152,168	千円 1,439,585

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

* 投資信託財産の構成 *

(2011年12月5日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
UBSコモディティ・マザーファンド	1,439,585	99.0
コール・ローン等、その他	14,989	1.0
投資信託財産総額	1,454,574	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨て。

* 資産、負債、元本及び基準価額の状況 *

(2011年12月5日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,454,574,063円
コール・ローン等	1,988,804
UBSコモディティ・マザーファンド(評価額)	1,439,585,257
未 収 入 金	13,000,000
未 収 利 息	2
(B) 負 債	13,875,373
未 払 解 約 金	4,387,916
未 払 信 託 報 酬	8,681,305
そ の 他 未 払 費 用	806,152
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	1,440,698,690
元 本	2,207,702,485
次 期 繰 越 損 益 金	△ 767,003,795
(D) 受 益 権 総 口 数	2,207,702,485口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C/D)	6,526円

[元本増減]	
期首元本額	1,608,755,498円
期中追加設定元本額	2,858,870,518円
期中一部解約元本額	2,259,923,531円
1口当たり純資産額	0.6526円
純資産総額が元本を下回っており、その差額は767,003,795円です。	

* 損益の状況 *

(自2010年12月7日 至2011年12月5日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	2,998円
受 取 利 息	2,998
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△172,006,684
売 買 損 益	91,578,239
売 買 損 益	△263,584,923
(C) 信 託 報 酬 等	△ 18,658,100
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△190,661,786
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 72,019,209
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△504,322,800
(配 当 等 相 当 額)	(460,407)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△504,783,207)
(G) 計 算 (D+E+F)	△767,003,795
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	△767,003,795
追 加 信 託 差 損 益 金	△504,322,800
(配 当 等 相 当 額)	(462,331)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△504,785,131)
分 配 準 備 積 立 金	310,210
繰 越 損 益 金	△262,991,205

- (注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(462,331円)および分配準備積立金(310,210円)より分配対象収益は772,541円(10,000口当たり3円)ですが、当期に分配した金額はありません。

<約款変更のお知らせ>

信託期間を5年間延長し、償還日を平成29年12月5日とする信託約款の変更を行いました。(約款変更実施日：平成23年9月2日)

信託約款に記載された「委託者の利害関係人等(親法人等又は子法人等)」を定義する参照法令につき、過去の法令改正に伴い生じた条項のずれに対応するため、所要の変更を行いました。(約款変更実施日：平成23年9月30日)

UBSコモディティ・マザーファンド

第4期（2011年12月5日決算）

（計算期間：2010年12月7日～2011年12月5日）

《運用報告書》

受益者のみなさまへ

「UBSコモディティ・マザーファンド」は、〈グローバル・アンブレラ UBSコモディティ〉が投資対象とする親投資信託で、信託財産の実質的な運用を行っております。

ここにマザーファンドの第4期の運用状況をご報告申し上げます。

*当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	世界の代表的商品市況を表すUBSブルームバーグCMCI総合指数に概ね連動し、世界の商品市況を反映する投資成果を目指して運用を行います。
主な運用対象	主として世界の代表的商品市況を表すUBSブルームバーグCMCI総合指数に価格が連動するユーロ円建て債券等（商品指数連動債等）を中心に投資を行います。
主な投資制限	・株式への投資割合は、転換社債の転換請求等により取得した株券に限るものとし、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

UBSグローバル・アセット・マネジメント

東京都千代田区大手町1-5-1

大手町ファーストスクエア イーストタワー

〈お問い合わせ先〉

投信営業部

03-5293-3700

〈受付時間〉

営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く

<http://www.ubs.com/japanfunds>

〈UBSコモディティ・マザーファンド〉

* 設定以来の運用実績 *

決算期	基準価額	期中騰落率	ベンチマーク		債券組入率	債券先物率	純資産
			UBSブルームバーグCMCI総合指数(円換算ベース)	期中騰落率			
(設定日) 2007年12月19日	円 10,000	% —	10,000.00	% —	% —	% —	百万円 5,067
1期(2008年12月5日)	5,285	△47.2	5,314.77	△46.9	98.9	—	1,209
2期(2009年12月7日)	6,884	30.3	7,063.08	32.9	97.2	—	1,607
3期(2010年12月6日)	7,137	3.7	7,394.38	4.7	99.9	—	1,127
4期(2011年12月5日)	6,689	△6.3	7,040.05	△4.8	99.3	—	1,446

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注3) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注4) 債券先物比率は買建比率—売建比率。

(注5) UBSブルームバーグCMCI総合指数(円換算ベース)はUBSブルームバーグCMCI総合指数を委託会社において円換算。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

* 当期中の基準価額と市況等の推移 *

年月日	基準価額		ベンチマーク		債券組入率	債券先物率
	騰落率	騰落率				
(期首) 2010年12月6日	円 7,137	% —	7,394.38	% —	% 99.9	% —
12月末	7,393	3.6	7,676.95	3.8	111.2	—
2011年1月末	7,626	6.9	7,935.03	7.3	102.1	—
2月末	7,846	9.9	8,182.00	10.7	106.9	—
3月末	7,968	11.6	8,319.88	12.5	98.6	—
4月末	8,124	13.8	8,496.45	14.9	101.0	—
5月末	7,681	7.6	8,053.21	8.9	98.2	—
6月末	7,562	6.0	7,920.98	7.1	99.0	—
7月末	7,556	5.9	7,919.56	7.1	98.8	—
8月末	7,315	2.5	7,672.80	3.8	98.3	—
9月末	6,476	△9.3	6,793.88	△8.1	98.9	—
10月末	6,695	△6.2	7,037.91	△4.8	99.2	—
11月末	6,553	△8.2	6,895.80	△6.7	98.4	—
(期末) 2011年12月5日	6,689	△6.3	7,040.05	△4.8	99.3	—

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 騰落率は期首比です。

(注3) 債券先物比率は買建比率—売建比率。

(注4) UBSブルームバーグCMCI総合指数(円換算ベース)はUBSブルームバーグCMCI総合指数を委託会社において円換算。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

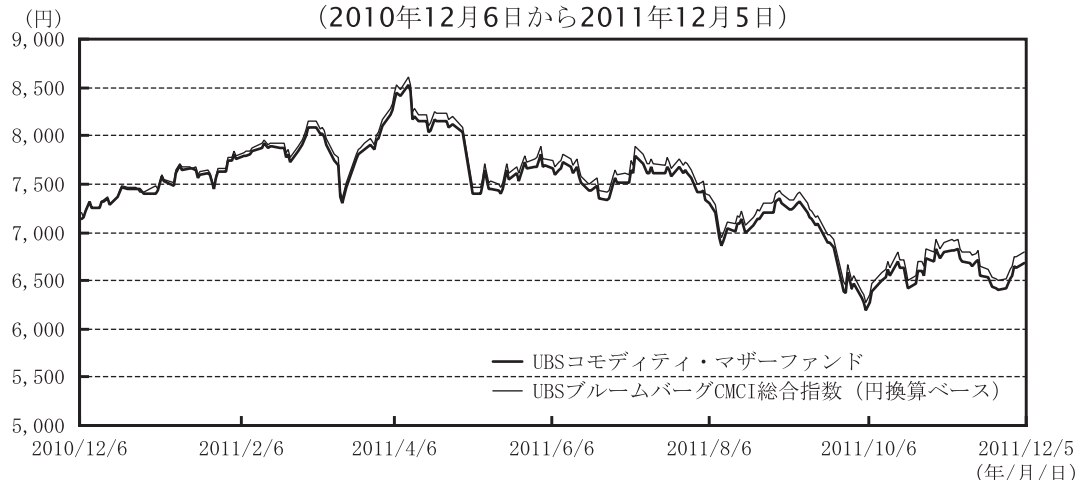
(注5) 債券組入率は、当ファンドの資金流入と債券の売買のタイミングがずれること等により100%を大きく超える場合があります。(以下同じ。)

UBSブルームバーグCMCI総合指数

UBSブルームバーグCMCI総合指数に関する著作権、およびその他知的財産権はUBSおよびBloombergに帰属しており、UBSの許諾なしにデータを複製・頒布・使用等することは禁じられております。UBS AGまたはその関係会社(以下、「UBS」という)が情報提供のみを目的として作成したものであり、指数構成銘柄への投資を推奨するものではありません。UBSは、情報の正確性、確実性および完全性を保証するものではなく、UBSは当指数の利用に伴う如何なる責任も負いません。

* 当期の運用状況 *

＜当期の基準価額の推移＞
 (2010年12月6日から2011年12月5日)



※ベンチマークは、2010年12月6日の値がファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

1. 投資環境

P2～4をご参照ください。

2. 運用経過

当ファンドは、主としてユーロ円債等（商品指数連動債等）に投資を行い、ベンチマークであるUBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）に概ね連動する投資成果を目指して運用を行ってまいりました。

期首7,137円でスタートした基準価額は2011年4月11日に高値の8,524円をつけましたが、その後下落し2011年10月5日には安値の6,193円をつけました。その後期末にかけては上昇し、当期末の基準価額は6,689円となり期中の騰落率は-6.3%となりました。なお、ベンチマーク（UBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース））の期中の騰落率は-4.8%となりました。

3. 今後の見通しと運用方針

商品市況の値動きは、主に世界各国のマクロ指標や景気対策の動向のほか、為替の変動に大きく左右されると考えられます。食品関連セクターは、引き続き需給の引き締めにより底堅く推移することが予想されますが、その他のセクターは、当面は、欧州の財政問題を巡る思惑も変動要因になると考えられます。

当ファンドとしましては、今後も引き続きUBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）に概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

* 1万口（元本10,000円）当たりの費用の明細 *

項	目	当 期
(a)	保 管 費 用 等	1円
	合 計	1

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 保管費用等は、期中の金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 期中の売買および取引の状況 *（自 2010年12月7日 至 2011年12月5日）

公社債

		買 付 額	売 付 額
		千円	千円
国内	社債券（投資法人債券を含む）	3,283,846	2,751,538

(注1) 金額は受け渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

(注2) 単位未満は切り捨て。

(注3) 社債券（投資法人債券を含む）には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

* 主要な売買銘柄 *（自 2010年12月7日 至 2011年12月5日）

公社債

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
千円		千円	
UBS Bloomberg Constant Maturity Commodity Index USD Total Return	1,662,846	UBS Bloomberg Constant Maturity Commodity Index USD Total Return	2,554,994
UBS Bloomberg Constant Maturity Commodity Index USD Total Return	1,621,000	UBS Bloomberg Constant Maturity Commodity Index USD Total Return	196,544

(注1) 金額は受け渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

(注2) 国内の現先取引によるものは含まれておりません。

* 利害関係人との取引状況 *（自 2010年12月7日 至 2011年12月5日）

(1) 期中の利害関係人との取引状況

区 分	買 付 額 等			売 付 額 等		
	A	うち利害関係人との取引状況B	$\frac{B}{A}$	C	うち利害関係人との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公 社 債	3,283	3,283	100.0	2,751	2,751	100.0

(注1) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはUBS証券会社、東京支店、ユービーエス・エイ・ジー（銀行）です。

(注2) 公社債には現先などによるものを含みません。

(2) 利害関係人の発行する有価証券

種 類	当 期		期 末 保 有 額
	買 付 額	売 付 額	
	百万円	百万円	百万円
公 社 債	3,283	2,751	1,435

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

該当事項はありません。

* 組入資産明細表 * (2011年12月5日現在)

公社債

債券種類別開示

国内(邦貨建) 公社債

区 分	当 期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 れ 比 率		
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
	千円	千円	%	%	%	%	%
普 通 社 債 券 (含む投資法人債券)	1,421,000 (1,421,000)	1,435,778 (1,435,778)	99.3 (99.3)	— (—)	— (—)	— (—)	99.3 (99.3)
合 計	1,421,000 (1,421,000)	1,435,778 (1,435,778)	99.3 (99.3)	— (—)	— (—)	— (—)	99.3 (99.3)

(注1) ()内は非上場債で内書きです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未満は切り捨て。

(注4) —印は組み入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

個別銘柄開示

銘 柄	当 期			末
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
(普通社債券(含む投資法人債券))	%	千円	千円	
UBS Bloomberg Constant Maturity Commodity Index USD Total Return	0	1,421,000	1,435,778	2012/10/24
合 計	—	1,421,000	1,435,778	—

(注) 額面・評価額の単位未満は切り捨て。

* 投資信託財産の構成 *

(2011年12月5日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 1,435,778	% 98.4
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	23,532	1.6
投 資 信 託 財 産 総 額	1,459,310	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨て。

* 資産、負債、元本及び基準価額の状況 *

(2011年12月5日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,459,310,943円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	23,532,511
公 社 債(評価額)	1,435,778,400
未 収 利 息	32
(B) 負 債	13,000,000
未 払 解 約 金	13,000,000
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	1,446,310,943
元 本	2,162,319,689
次 期 繰 越 損 益 金	△ 716,008,746
(D) 受 益 権 総 口 数	2,162,319,689口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C/D)	6,689円

[元本増減]

期首元本額	1,580,003,937円
期中追加設定元本額	2,309,858,829円
期中一部解約元本額	1,727,543,077円
1口当たり純資産額	0.6689円
純資産総額が元本を下回っており、その差額は716,008,746円です。	

[当マザーファンドの当期末における元本の内訳]

グローバル・アンブレラ UBSコモディティ	2,152,168,123円
UBSコモディティ・ファンド(UBSブルームバーグCMCT連動型)	10,151,566円

* 損益の状況 *

(自2010年12月7日 至2011年12月5日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	17,127円
受 取 利 息	17,127
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△223,281,375
売 買 益	56,525,590
売 買 損	△279,806,965
(C) 信 託 報 酬 等	△ 247,103
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△223,511,351
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△452,311,643
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△518,358,829
(G) 解 約 差 損 益 金	478,173,077
(H) 計 (D+E+F+G)	△716,008,746
次 期 繰 越 損 益 金(H)	△716,008,746

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<約款変更のお知らせ>

信託約款に記載された「委託者の利害関係人等(親法人等又は子法人等)」を定義する参照法令につき、過去の法令改正に伴い生じた条項のずれに対応するため、所要の変更を行いました。(約款変更実施日：平成23年9月30日)